



祝！三ツ石地区乗合タクシー運行5周年

同じお考え 大竹市地域公共交通活性化協議会(自治体連携内) 02-142

三ツ石地区乗合タクシーは、平成21年10月5日に実証運行を開始し、今年の10月5日運行開始から5周年を迎えます。利用状況が好調なことから、平成24年4月には本格運行へ移行しました。

支線交通導入の背景

三ツ石町は標高410mの高地に位置し、市道は狭く、傾斜地が多い地域です。また、平成19年当時は既に高齢化率が40%を超え、単身世帯も22%超という状況でした。

市では、平成20年3月に、市民のための持続可能な公共交通体系を構築するための「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定するため、「大竹市地域公共交通活性化協議会」が発足しました。三ツ石町を住みやすい町にするための生活交通手段を確保したいと考え、自治会を中心に取り組みが始まりました。

導入までの経緯

平成20年3月に、自治会を中心にワーキング委員会を立ち上げて骨子を作り、そのプランについて各班が

ら選出されたプロジェクト委員会で議論を重ねていきました。途中、全体会議で地区住民の方にお話するという方法で進めていきました。

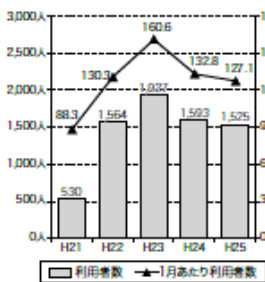
ワーキング委員会24回、プロジェクト委員会6回、全体会議5回、合計35回もの議論を重ね、ワーキング委員会立ち上げから1年半を経て、実証運行が開始されました。



プロジェクト委員会の様子

利用状況・運営状況

運行開始当初は、1月あたりの利用者数が90人程度でしたが、平成23年度には160人にも増えました。平成24・25年度は約130人ですが、23年度に比べると減少していますが、



他地区の乗合タクシー(ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー)と比べると、1月あたりの利用者数1台あたりの利用者数とも、最も多い状況です。

平成26年6月末時点の累計利用者は約7,500人で、昨年並みの利用状況で推移すると、運行を開始した10月には、8千人を突破する見込みです。

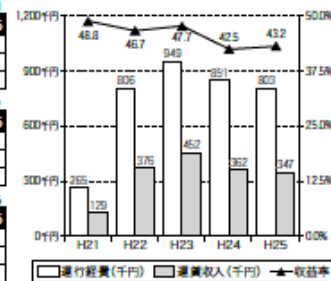
運行開始当初に比べて収益率は減少傾向にありますが、5年間、40%を維持しており、他地区の乗合タクシーと比べて最も高い状況です。

※ 収益率は、運行経費に対する運営収入の割合のことで、

1月あたりの利用者数					
	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
三ツ石	88.3	130.3	160.6	132.8	127.1
ひまわり	-	-	57.2	85.8	90.6
湯舟	-	-	14.0	8.8	17.6

1台あたりの利用者数					
	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
三ツ石	1.80	1.75	1.83	1.68	1.71
ひまわり	-	-	1.48	1.52	1.53
湯舟	-	-	1.27	1.19	1.21

収益率					
	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
三ツ石	48.83	48.69	47.66	42.52	43.17
ひまわり	-	-	34.43	36.76	37.22
湯舟	-	-	35.35	33.08	33.49



プロジェクト委員・利用者の声

7月23日にプロジェクト委員会が開催されました。市から5年間の利用状況の推移について説明した後、運行に関する要望や利用促進策などについて、意見交換しました。

また、運行5周年にあたって、運行して良かった点やこれからの思いなどについて伺いました。

- 家まで送迎してくれて、米などの重い荷物を玄関まで運んでくれるので、とても助かっています。
- 乗合タクシーを利用するようになり、生活のリズムを乗合タクシーの運行ダイヤに合わせてできるようになりました。
- 普通のタクシーより安く利用できるもので、とても助かっています。



左から、長谷久美子さん、正木藍子さん、如川啓子さん、中川美穂子さん

○地区をあけて取り組んだので、地域の皆さんがよく利用しています。

高齢化により利用できなくなった方もいますが、今後も乗合タクシーを守り、育てていきたいと思っています。

○乗合タクシーなので、知らない方と乗り合わせることありますが、色々な話ができて楽しいです。

○雨の日の買い物にはとても便利です。

○運行5周年を機に、更なる利用促進策を検討したいと思います。



左から、岡田征男さん、藤本幸子さん、村上シズエさん、大上百合子さん

- 運転手さんがとても親切です。気軽に会話ができることもあり、安心して利用できます。
- 今後も利用を促進し、乗合タクシーを長く存続させたいです。



左から、松本正勝さん、古田完爾さん

運転手の声

三ツ石地区乗合タクシーの運転手さん(一部)にも、運行にあたっての思いを伺いました。

○これからも、三ツ石地区の皆さんが安心して利用することができるよう、安全な運行に努めます。



左から、中島正貴さん、金子清さん、梶田繁久さん



交通手段にお困りの地区は、移動手段がなくて困っている地域で、住民の皆さんが「自分たちで考え、創り、守り、育てる」という思いを持つ地域に対しては、ファイダー(支線)交通を導入する仕組みがあります。詳しくは、市地域公共交通活性化協議会事務局までお問い合わせください。

三ツ石地区乗合タクシー運行5周年によせて

三ツ石町自治会長 中村和嗣さん

大竹市制施行60周年の年に、運行開始から5周年を迎えます。乗合タクシーが整備されたことで、玄関先から市役所、買い物、病院への移動ができるようになり、当地区は公共交通ゼロ地域の不安から解放されました。乗合タクシーを利用し、普段出会うことの少ない町内の人と乗り合わせ、会話することで、お互いを知る機会ができ、より地域の絆が深まっています。何もなかったころから、手探りで公共交通の整備に取り組むのは大変でした。当地区の松川さんを代表とするワーキング委員会、プロジェクト委員会が18カ月もの間、住民の皆さんを巻き込んで話し合いを続けた結果、地区住民の思いが一つになり、運行を開始することができました。

話し合いの過程では、自治会連合会の先進地の視察研修や大阪大学の森栗教授の指導を受けたことにより、市と協働による地域のための地域の人による公共交通を運行させる大切さを学ぶことができました。

当初は、乗合タクシーということで、250円の低料金でタクシーを利用することに対して抵抗感がありましたが、徐々に、今日は誰と出会うだろうとの期待に変わっていきました。今では、乗合タクシーの運行日時に合わせて、日常生活のリズムが変わってきているようです。三ツ石地区は、全住民の49%が65歳以上です。これからは住民一人一人が利便性を感じることができるよう、必要に応じて、改善策を検討したいと考えています。

今後も、住民の皆さんと知恵を共有して、三ツ石地区乗合タクシーを守り、育てていきたいと思っています。

